



「幼児の造形」

林 健 造

相 談 の 窓

二月号から三回にわたって書いた、「幼児の美術講座」について、あるいは、それと関連のある幼児の絵画や製作について、読者の皆さんからいろいろ御質問をいただきましたが、今月はそれらの中から、比較的共通な悩みと思われるものを選び、御答えしていきたいと思えます。

中国の言葉に「亡羊之歎」というのがあ

ります。枝道がいっぱいあって、とうとう羊をつかまえることができなかつたという意味のようですが、このことは小羊のようにかわいい幼児の問題についても言えることで、私どもの目頃にも、あれかこれかと岐路に迷よって、適確な問題の解決ができずにとうとう小羊を見失ってしまうことが多いようです。

問 私の園ではぬりえ帳を使わせていま

す。それは子どもが大好きであることと、輪郭内にはみださぬように色を塗ることは必要なことだと思うからですが、ぬりえがいけないというのはなぜでしょうか。

答 「ぬりえ」を与えておくと、子どもは一定時間静かに作業をしていますので何か、よい保育をしているような錯覚に陥ります。ぬりえが、子どもの美術にとって大きな弊害であることは、我国だけでなくアメリカなどでもいまや定論になっていきます。子どもが好きだからということだけで、何を与えてもよいということはありません。危険です。輪郭の中に色をはずさないで塗るということは、人間にとってそれ程重要なことでしょうか、とくに手の巧緻性の未発達な幼児にとって……。しかも、輪郭にそって塗りはじめるやいなや、子どもの創造の芽はしほみ、喜びや、不安はかげをひそめ、個性を失わない、その後には人や犬を描くときに、大人の描いたぬりえの形を思い出して、「かけない」といいたず子になり、依頼心の強いしかも、既成の大人の概

念に子どもをしぼりつけることからくる創造意欲の喪失は、その代償として、あまりにも大きな損失ではないでしょうか。

なお、実験的にも、子どもが自分で描いた絵の方が、ぬりえのときよりも色をはみださないといわれています。このぬりえでも、例の騰写印刷をしてわたす切り抜きでも、子どもの想像力を発揮する自信を失なわせません。これらの考え方の基となるものは、「子どもは大人の未完成のもの、したがって大人が輪郭をとってやったり、形を与えたりすることが大切だ」という子どもの人格（表現）を認めない、小さい大人を教育するという古い考え方が先行しているといえましょう。

問 私は、元来絵がへたなので、子どもの絵をどう指導してよいか解らないのですが、指導したり、手伝ったりしてはいけないのでしょうか、いけないとするとどんなことをすべきなのでしょう。

答 水泳のときにプールに入る前にシャワーを浴びますね。まず「絵がかけないから」

というあなたの劣等感を洗いさることで。新しい美術教育での望ましい教師とは、すばらしく絵がうまいということではなく、子どもをよく知っているということ、子どものよい話相手になれる人です。大いに自信をもって下さい。

次に指導や手伝いということには次の二つの場合が考えられます。

一つはいわゆる「どうかくの」という子どもの質問についての指導ですが、その描き方を指導することはよくないことであり、むしろできないことです。蛙がおたまたまじゃくしに戻れないように、大人が幼児の絵を描くことはできません。大人は外がわから観察し、みえるように描く（視的写真）

に対して、幼児は内がわからしていることを描く（知的写真）やり方です。「犬」を描く場合でも、大人は客観的なごくありふれた、犬をかきますが、子どもは、自分の経験を描くか、（\*描いたことは実行したことである・コックレル）又は自分自身が犬になりきっている。（\*アニミズム）しかなく、世界の子どもの動物の絵はすべて人間からでる」といわれているように犬の顔

にも、人間のような目鼻をつけてあやまさない。

これでは大人が教えられないはずですが、しかも一度大人が描いてやると何度でも、何でもお手伝いしてもらおうというよりかかりを与えますし、子どもは大人の描いたのを見て自分の表現について自信を失ないます。次によい指導やお手伝いといわれるものは、子どもの過去の経験をよびおこしたり、自信をなくしている子を激励したり、描こうとするものに敏感になるような刺戟を与えたりすることです。

「兎さん走つてるところどうかくの」

「ミーちゃんが兎さんになつてとんでごらんなさい、先生も兎さんになろうね」

子どもは、自分の体を動かすことにより理解する。（\*ボディ・ムーブメント）このような子どもの特性を生かした指導は生き生きとして役立つ指導です。したがって教師の役割は、何か教え込まなければ、教師の権威を失なうなどということはないのですから子どもに絵のかき方などを教え込まないように、かといって手をこまねいていればよいのはありません。適切な刺

戦と激励を与え、やさしい相談相手となることと共に環境（教室のふんいき、お友だち同志・材料や用具）を整えてやることです。

問 どうしても絵を描かない子、それから・いろいろ理屈をいって絵を描かない子をどう指導したらよいでしょう。

答 描かない子にはいくつかの型があるようです。じっと指をくわえて描こうとしないう子、「描けないんだよ」とその表現内容が十分につかめない子、「上手に描けないからいや」といって描かない子などがありますが、他にも家をぼつんとかいたり、いつも同じような電車を描いてそれから後はいっこうに描こうとしない子にも悩まされま

す。描かない子はなにかによって創造的な表現を抑圧されているのです。ロウエンフェルドもいっているように、絵の標準を大人に求めないで、自分を標準とし、発達のレディネスを充分にしたら描けないことはないでしょう。第一のタイプの子はよく内向性の子どもに多く、描くことの恐怖が

多いようです。私は、拙著「歌う幼児画・（七星閣版）」の中の「赤まるころころ」や、「クレヨンのおさんぽ」「ぎざぎざお山」などのように、リズムにつられて思わず描いてしまうような、あるいは、いわゆるオートマテイク（自動性）な方法で救ったことが多くあります。ある友人の体験におもしろい話があります。どうしても描かない子

に悩んだ結果、ある日その子の体をくすぐったり、足をもつて逆にぶらさげたりしたら、その子はめったに笑うようなことのない子だったが急にゲラゲラ笑いだし、それから絵を描きだすようになったのです。これなどは先にのべた子どもに訴える方法が偶然効を奏したものでまさに児体開頭とでもいうべきでしょう。

その外、描けない主な原因は、大人に笑われたり、くさされたり、叱られたり、または、人の描き方はこうなどと教わったりしたことが主です。このような子の自信を取戻すためには、もっと小さい子の絵をみせたり、自分の力で描いたときに大いにほめてやったりすることです。また、心が空虚だったり、描くものの細部迄十分に思い

出せないために描けないこともあります。これは十分なお話し合いをし、昨日の経験したことなどの細い部分まで思い出させ、想像力を高めてやります。

次に子どもはなかなかの理論家で、うまく逃げこもうとすることがあります。家をつだけぼつんと描いている子に、

「お家には誰もいないのかな、先生が、ごん、ちわつて訪ねていくときこまっちゃうね」

というと、すかさずこう答える。

「うん、家の人はこっちの方にいるの、だけどこの紙小ちゃいからかけないの」  
こんな時は、その方向に紙をつないでやることです。

「しっぽだけしか見えないよ」といって  
犬小屋から一寸しっぽだけしかかかなかつた子は、実は犬が描けないのをカムフラジーしているのだったし、

「この電車は誰もっていないのね」というと

「車庫に入ってるんだよ」と逃げる。  
「それじゃあ、車庫がなくてこまるでしょう。」と紙を貼たしてやる。といったよ

うに追込んでいくこともまた大切なこと  
です。

問 二年保育の年長組の子ですが、ねんど  
で自由製作をさせますといつもきまっ  
てお皿とおだんごしか作りません、も  
っといろいろ違った表現をさせたいと  
思いますが。

答 絵の場合にもそのようなことがあるの  
ですが、その子どもはどちらかというとい  
気で臆病な子だと思えます。人は誰でも、  
かって経験して失敗しなかった表現の範囲  
内で仕事をしようとしています。ところがこ  
からは美術教育のねらいである創造力は生  
まれてこないのです。そこでまずその原因  
を想像してみると、大人が干渉し過ぎた  
り、おだんごはこうして作るなどと教え  
たりしたかして、自信を喪失したことが大  
きいと思われませんが、またねんどの分量が  
く少なかったり、よく丸めたのを与えたり  
することも原因だったでしょう。

対策としては、まずねんどの分量を豊富  
に、しかもちぎりっぱなしで与えること、  
ものを作らせることにせ、か、ちにならずに

たいたたり、のばしたり、ぶっつけたりし  
てねんどあそびをして十分に材料体験をさ  
せること。これは渡されたら作らなければ  
ならないという恐怖感を排除し、材料機能  
の基礎を学ぶことになるでしょう。そし  
て、少しでも新しい表現が生まれたときに  
賞讃をおしまないこと。また家庭と連絡し  
て、休日などは動物園や遊園地などに一家  
団らんし、楽しい思い出となる経験を豊か  
にすることです。

問 幼児の絵画製作についてのよい参考図  
書をおしらせ下さい。

答 つぎの本は、そのためによい参考とな  
ると思います。

\* 子どもの絵 (ローエンフェルド著)  
見 勝 白揚社

480円

\* 幼児の絵・その心理と導き方

(研究 京都保育会) 創元社  
(編集 岡田清) 創元社

280円

\* 工作による創造教育 (岡田清著)

創元社

280円

\* 児童画の見方と指導

(竹田・霜田・久保共著) 金子書房

280円

\* 子どもの絵と教育 (北川民次著)

創元社

270円

\* 親と教師に語る

(ホーマア・レイン著)  
小此木真三郎訳 博文社

250円

\* 絵をかく子ども (湯川尚文著)

誠文堂新光社

270円

\* 幼児の絵は生活している

(宮武辰夫著) 栗山書房

\* 保育のための美術 (宮武辰夫著)

恒星社厚生閣

380円

\* 絵を描く子どもたち (北川民次著)

岩波書店

100円

\* 芸術家としての子供達

(トムリンソン著)  
久保貞次郎訳 美術出版社

180円

\* 歌う幼児画 (林健造著)

七星閣 (お茶の水女子大講師)

250円

× × ×

× ×